

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年1月13日(2005.1.13)

【公表番号】特表2000-511957(P2000-511957A)

【公表日】平成12年9月12日(2000.9.12)

【出願番号】特願平10-501121

【国際特許分類第7版】

C 0 8 G 18/42

B 2 9 C 39/02

B 2 9 C 43/02

C 0 8 G 18/48

C 0 8 J 9/14

// B 2 9 K 75:00

B 2 9 K 105:04

【F I】

C 0 8 G 18/42 F

B 2 9 C 39/02

B 2 9 C 43/02

C 0 8 G 18/48 F

C 0 8 J 9/14 C F F

B 2 9 K 75:00

B 2 9 K 105:04

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月19日(2004.5.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

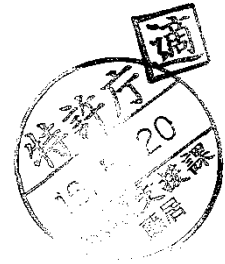
# 手続補正書

平成16年 5月19日

特許庁長官殿

## 1. 事件の表示

平成10年特許願第501121号



## 2. 補正をする者

氏名(名称) バイエル・アクチエンゲゼルシャフト

## 3. 代理人

住所

〒540-0001  
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル  
青山特許事務所  
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名

弁理士 (6214) 青山 葆



## 4. 補正対象書類名 明細書および請求の範囲

## 5. 補正対象項目名 明細書および請求の範囲



## 6. 補正の内容

### I. 明細書の補正

(1) 第2頁第5行の「US 5 371 317号」を『US 5 391 317号』に訂正する。

(2) 第2頁第15行の「溶解制」を『溶解性』に訂正する。

(3) 第2頁第17行の「貧弱な」を『不良な』に訂正する。

(4) 第2頁第23行～第25行の「たとえばR 11-低減発泡のフォームと同様な低いレベルを特に発泡剤としてのシクロペンタンを用いて操作した際に示す熱伝導率を有するフォーム」を『特に発泡剤としてシクロペンタンを用いた際に、R 11-低減発泡のフォームと同様な低いレベルの熱伝導率を有するフォーム』に訂正する。

(5) 第3頁第1行の「少なくとも」を『少なくとも』に訂正する。

(6) 第3頁第5行の「1種」を『1個』に訂正する。

(7) 第5頁第14行および第7頁第17行の「同時使用」を『使用』に訂正する。

(8) 第7頁第18行の「同時使用すべき」を『使用される』に訂正する。

(9) 第5頁第17行の「F a. フェンネッケ社」を『フェンネッケ社』に訂正する。

(10) 第5頁第19行～第20行の「混合時点からフォーム中に挿入された棒に対し引き抜きに際し繊維が付着する時点」を『混合時点から、フォーム中に挿入された棒を引き抜く際に棒に繊維が付着する時点』に訂正する。

(11) 第6頁第8行の「マリレイン酸」を『マレイン酸』に訂正する。

(12) 第6頁第13行の「ポリオール成分」を『ポリオール成分A』に訂正する。

(13) 第7頁第15行の「柔軟剤」を『可塑剤』に訂正する。

(14) 第8頁第9行の「複合部材」を『複合部品』に訂正する。

(15) 第8頁第10行の「冷却家具」を『冷却機器』に訂正する。

(16) 第8頁第21行～第22行の「混合時点からフォーム中へ挿入された棒を引き抜く際し繊維を伴う時点」を『混合時点から、フォーム中へ挿入された

棒を引き抜く際に棒が繊維を伴う時点』に訂正する。

(17) 第9頁第17行の「成物」を『成分』に訂正する。

(18) 第9頁下から第1行の「42 kg/m<sup>3</sup>」を『32 kg/m<sup>3</sup>』に訂正する。

(19) 第10頁下から第2行の「147重量部」を『148重量部』に訂正する。

## II. 請求の範囲の補正

別紙の通り。

以上

(別紙)

## 請求の範囲

1. ポリオールおよびポリイソシアネート並びに発泡剤および必要に応じフォーム助剤からの低い熱伝導率を有するポリウレタン硬質フォームの製造方法において、ポリウレタン硬質フォームを

A. 1. イソシアネートに対し反応性の少なくとも2個の水素原子を有する分子量100～30000 g/モルの少なくとも1種のポリエステルポリオールと、

2. イソシアネートに対し反応性の少なくとも2個の水素原子を有すると共に分子量150～12500 g/モルの少なくとも1個の第三窒素原子を有する化合物と、

3. イソシアネートに対し反応性の少なくとも2個の水素原子を有する分子量150～12500 g/モルの化合物と、

4. 触媒と、

5. 水と、

6. 発泡剤と、

7. 必要に応じ助剤および/または添加剤と

を含有するポリオール成分を、

B. 20～48重量%のNCO含有量を有する有機および/または改変有機ポリイソシアネートと

反応させることにより得ることを特徴とするポリウレタン硬質フォームの製造方法。

2. ポリエステルポリオール(1)として、芳香族および/または脂肪族モノ-、ジ-およびトリ-カルボン酸と少なくとも2個のヒドロキシル基を有するポリオールとからの分子量100～30000 g/モルのポリエステルを使用することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。

3. 成分(2)として、70～100重量%の1,2-酸化プロピレンと0～30重量%の酸化エチレンとに基づくo-トルイレンジアミン出発のポリエーテルを使用することを特徴とする請求の範囲第1項または第2項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。
4. 成分(2)として、50～100重量%の1,2-酸化プロピレンと0～50重量%の酸化エチレンとに基づくエチレンジアミン出発のポリエーテルを使用することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。
5. 成分(2)として、50～100重量%の1,2-酸化プロピレンと0～50重量%の酸化エチレンとに基づくトリエタノールアミン出発のポリエーテルを使用することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。
6. 成分(3)が、70～100重量%の1,2-酸化プロピレンと0～30重量%の酸化エチレンとに基づく蔗糖出発のポリエーテルを含有することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。
7. 成分(3)が、70～100重量%の1,2-酸化プロピレンと0～30重量%の酸化エチレンとに基づくソルビトール出発のポリエーテルを含有することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。
8. 成分(3)が、70～100重量%の1,2-酸化プロピレンと0～30重量%の酸化エチレンとに基づくトリメチロールプロパン出発のポリエーテルを含有することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。
9. 成分(3)が、70～100重量%の1,2-酸化プロピレンと0～30重量%の酸化エチレンとに基づくグリセリン出発のポリエーテルを含有することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。
10. 水含有量がポリオール成分A(1)100重量部当たり0.5～7.0重量部であることを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。

11. 発泡剤(6)としてシクロペンタンまたはn-および/またはi-ペンタンを使用することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。

12. 発泡剤(6)として、c-ペンタンおよび/またはn-ブタンおよび/またはイソブタンおよび/または2,2-ジメチルブタンからの混合物を使用することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。

13. 発泡剤(6)として、n-および/またはi-ペンタンおよび/またはシクロペンタンおよび/またはシクロヘキサンからの混合物を使用することを特徴とする請求の範囲第1項に記載のポリウレタン硬質フォームの製造方法。

14. 複合部品の間層として、または中空空間をフォーム充填するための請求の範囲第1～13項のいずれか一項に記載の方法により得られたポリウレタン硬質フォームの使用。